

共同研究「“日常茶飯”—日本人は何を食べてきたか—」

第5回 公開研究会

すし・てんぷら・うなぎ・そば
—江戸の屋台からつながる現代の食文化—

真島 俊一 氏 (株式会社TEM研究所所長)

真島 麗子 氏 (主任研究員) 宮坂 卓也 氏 (研究員)

参加自由

日時 : 2023年11月17日 (金)

15 : 00 ~ 17 : 00

会場 : 神奈川大学横浜キャンパス
9号館212教室

神奈川大学

日本常民文化研究所

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>



世界各地で日本料理ブームが進んでいます。しかし、「日本料理とは何か？」と問われても、実は一向に明確ではなく、ますます分からなくなってきていると言っても過言ではありません。

こんな中、文化庁では、現在、「食文化振興に向けた取り組み」を行っています。この事業では地域の食文化の価値向上と、食にまつわる伝統文化の魅力を推進するのが目的であり、さらに国内外にそれらの食文化の魅力を発信する事などが謳われています。

今回私達は、この取り組みの一つとして「食文化の無形の文化財の登録等に向けた検討」のため、「すし・てんぷら・うなぎ・そば」に関する習俗の歴史と「わざ」について調査を行いました。

これらの身近な日本食が、日々の暮らしの中で熟成され、どのように私達の暮らしを支えてきたのか、今回の調査から見えてきた日本人の食文化の一端をご報告いたします。